

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和6年10月28日（月）
- 2 確認箇所
2号機原子炉建屋（図1）
※作業状況を遠隔操作室において確認
- 3 確認項目
2号機燃料デブリ試験的取り出し作業の状況

4 確認結果の概要

2号機においてテレスコピック式試験的取り出し装置（以下「テレスコ装置」という。）による燃料デブリ^{*1}試験的取り出し作業が8月22日から実施されており、9月9日にテレスコ装置先端部が原子炉格納容器（以下「PCV」という。）隔離弁を通過し、作業着手となった。

その後、燃料デブリ把持作業の準備として、9月17日にテレスコ装置の動作確認等を行ったところ、テレスコ装置先端のカメラ映像（①先端治具監視カメラ、②アーム先端部カメラ）が遠隔操作室内のモニターに適切に送られてこないことが確認された。

このため、カメラ映像の復帰作業が行われたが、カメラ映像が復帰しないことから、10月17日～18日に当該カメラ2台の交換作業が行われた。

本日は、燃料デブリ試験的取り出し作業が再開されることから、その状況を確認した。（前回確認：[令和6年10月18日](#)）

【確認結果概要】

- ・遠隔操作にて隔離弁の開操作が行われた後、押し込みパイプ①をガイドパイプ^{*2}に接続し、パイプ送り機構により押し込みパイプ①をPCV内部側に挿入する作業が行われ、先端治具が隔離弁を通過した。
- ・その後、押し込みパイプ②の継ぎ足しを行い、同様にPCV内部側に押し込む作業が行われ、先端治具がPCV手前90cmの位置にて本日の作業は終了となった。
- ・作業は細かいステップに分けられており、作業毎に遠隔操作室から現場作業員に対してトランシーバーを使用して作業内容の説明が行われ、その後、現場でTBM-KY^{*3}が実施された後、作業が開始された。
- ・作業の区切り毎に現場から遠隔操作室に報告があり、現場と遠隔操作室において情報の共有が図られていた。

※1 燃料デブリ

加熱した燃料が燃料被覆管や炉内構造物等とともに熔融し、その熔融物が冷えて固まったもの。

※2 ガイドパイプ

金属でできた筒。外筒と内筒からなり、内筒は原子炉格納容器内部まで伸びる構造となっている。内筒の先には压力容器下部にアクセスするためのチルト機構・テレスコ機構が接続されている。

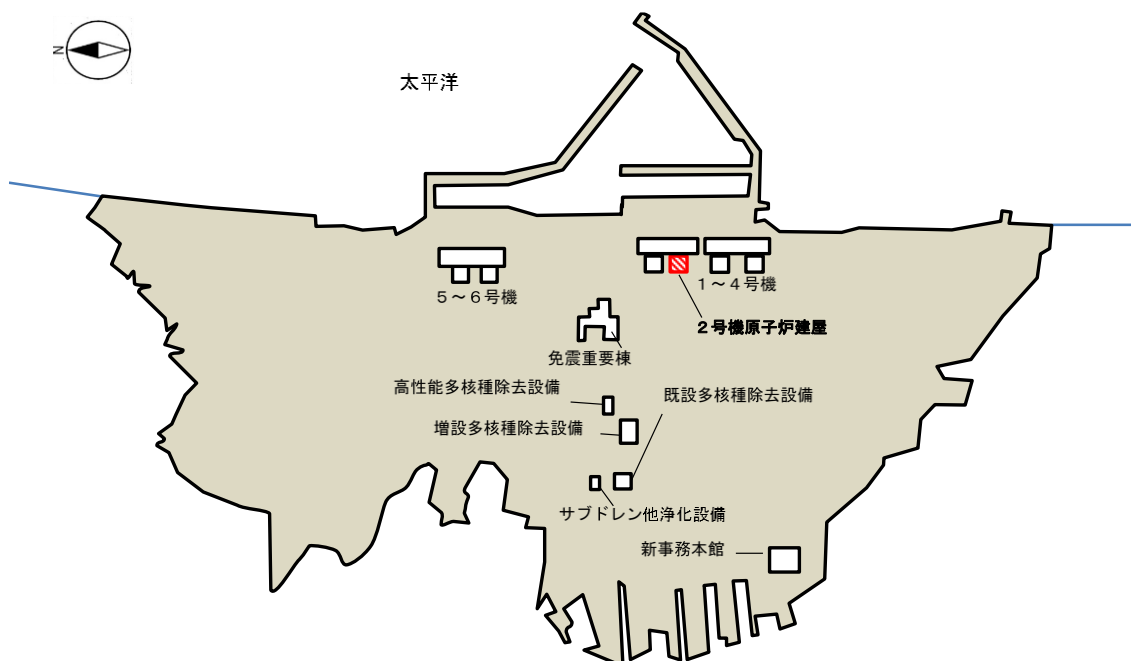
※3 TBM-KY

TBM（ツール・ボックス・ミーティング）

：作業開始前に行う打ち合わせのことで、「ツール・ボックス＝工具箱」の近くで行われるため、このように呼ばれている。

KY（危険予知活動）

：労働災害や事故の原因となる可能性のある不安全行動や不安全状態を「予知」「予測」するための取り組み。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータに異常な値は確認されなかった。